

諏訪信仰の歴史に触れる

信玄の信仰篤い、諏訪神社の総本社。厳かな聖域に、足を踏み入れてみる。

東国第一の軍神 諏訪大明神

諏訪の自然と歴史と信仰をテーマにした諏訪市博物館。諏訪信仰と信玄の関わりを知るべく、諏訪大社参拝前に立ち寄ってみる。入口前に足湯があるのは、さすが全国有数の温泉郷。館内に入り、諏訪信仰の成り立ちなどを展示する二階の常設展示室へ。

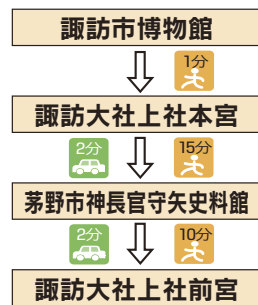
館内の説明によれば、中世以降、東国第一の軍神として全国に広がったという諏訪信仰。お諏訪様、諏訪大明神ともいわれ崇敬される。信玄は合戦前、諏訪社に願文を奉納し、必勝を祈願するほど信仰が篤かった。戦場には“南無諏方南宮法性上下大明神”と書かれた大旗籠を掲げたという。

博物館を出て上社本宮の北側参道へ。鳥居の奥、神体山ともいわれる守屋山を従えた上社本宮が見えてきた。諏訪大社は上社（本宮、前宮）、下社（秋宮、春宮）の二社四宮からなり、社殿の四隅に御柱祭で曳き建てられた大木（御柱）が建つ。

案内看板を見ると、東側から入口御門を通り、境内に赴くのが正式な参拝路。それに従い左手に行く。神楽殿、土俵などを脇に眺めながら東へ。趣深い布橋をゆっくり進むと、幣拝殿へつながる。中央の御神紋である梶の木（紋は葉）を見つつ、拝所へ。厳粛な雰囲気の中、二拝、二拍手、一拝。背筋



祭神は建御名方神。御神紋は梶の葉。本殿を持たない諏訪造りという建築様式。我が国最古の神社の一つ。本宮宝物殿に御柱祭への指示もある信玄十一軸（沙汰書）が残る。



諏訪市博物館に所蔵されている信玄の古文書。信玄は諏訪社へ戦勝祈願をするともに祭事・神事復興、庇護に尽力した。諏訪家を滅ぼした彼がこの地で愛される所以である。



【諏訪市博物館】

- 休館日/月曜日(祝日の場合翌日)
- 開館時間/9:00~17:00
- 入場料/一般310円、小・中学生150円
- お問い合わせ/0266-52-7080



本宮境内へ続く長い回廊、布橋は、足音さえもどこか厳かに響く。左の絵馬堂に、前回の御柱祭で使われたメドデコが飾られている。

を正し、諏訪大明神に挨拶をした。

東参道から茅野方面へ。上社前宮への途中、茅野市神長官守矢史料館を訪ねる。諏訪社の祭祀を司り、武田家との縁も深い守矢家。独創的な外観に目を奪われつつ、中へ。と、はっ、と息を呑む。串刺しのウサギ、鹿の首の数々…。諏訪社の重要神事・御頭祭の供物の復元展示である。荒ぶる神々の原始的な力に気圧されながら、その奥、信玄文書や、信玄寄贈という十角重箱等を拝んだ。しんと静かな空間。いにしえの人々の足跡。まるで、かつての時代に迷い込んだかのようにであった。

そこからのんびり徒歩10分。鳥居を抜け、石段を上がり、さらに坂道を数百メートル行くと、諏訪大社・上社前宮に到着。建御名方神が最初に居住し、諏訪信仰発祥の地とも伝わる。静かな境内、すぐ脇を流れる小川のせせらぎ。どこからか、鳥の歌声が響いていた。



大きく傾斜した屋根が特徴的な茅野市神長官守矢史料館。御柱のイメージか、入口の庇を貫く四本の木。外壁はサワラ手割板に覆われ、内壁は特別調合の壁土。この史料館の魅力は建物にもある。



木立に抱かれ、神秘的な雰囲気をもつ前宮。上社の祭祀の中心地として、大祝の居館・神殿など多くの建物があったが、戦国時代頃に神殿が移転され、現在は祭典に必要な建物のみ。

東国第一の軍神 諏訪大明神

銀色に輝く、細長いドームのような建物。諏訪湖に浮かぶ舟の底をイメージした下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館である。諏訪が生んだ日本の代表的歌人・島木赤彦や諏訪湖に関する資料などを置くが、今回の目的は、諏訪法性兜である。命運を賭けた戦では、信玄が必ず着用したと伝わる兜。実物に對峙してみると、何とも剛勇である。武田家に受け継がれてきた伝説の兜を目の前に、本陣にどっしり構え、兜を着用した信玄の威風堂々たる姿をしばし思い描いてみた。

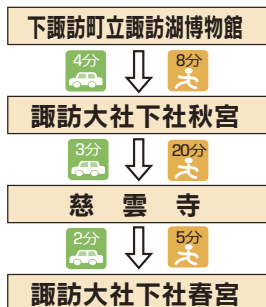
諏訪大社下社・秋宮に到着。鳥居、杉の大木が印象的。境内に入りしばらく進むと、右脇奥に竜の口からお湯が流れている。境内にも温泉が湧くこの地の恵みを知りながら、やや熱めの湯で手を清める。

神楽殿の注連縄、両脇の狛犬の大きさに圧倒されつつ、その先へ。左右に片拝殿をもつ幣拝殿にて参拝。上社本宮では一般参拝客は幣拝殿の手前である参拝所での参拝となるが、下社では目の前で参拝することができる。そんな違いもまた面白い。幣拝殿を包む緑の木々。ひそやかな境内。何とも荘厳な気分にも包まれた。

秋宮から西へ。古い造りそのままの旅館や温泉浴場の看板を眺めながら旧中山道をのんびり歩くと、



秋宮・幣拝殿には参拝客が絶えない。下社の祭神・八坂刀売神は毎年二月から七月の間は春宮に、それ以外はここ秋宮にと鎮座されている。



武田家が諏訪明神より授かり、代々家宝とした諏訪法性兜。原作では勘助は勝頼がこの兜をかぶり、家督を継ぐその日を夢見た。



【下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館】

- 休館日／火曜日（祝日の場合翌日）、祝休日の翌日、年末年始
- 開館時間／9:00～17:00
- 入場料／高校生以上350円、小・中学生170円
- お問い合わせ／0266-27-1627



秋宮の神楽殿に掛けられた巨大な注連縄は、間近で見るとその壮大さもひとしおである。両脇には青銅製では日本一の大きさを誇る狛犬を従える。

やがて慈雲寺へと続く石段が見えてくる。この寺の第七世天桂禅師は信玄の信任厚く、川中島の合戦前に信玄が立ち寄ったと伝わる。門をくぐると、白砂利と風格漂う天桂松。静まりかえる古刹は風致に富み、美しい日本絵画のようであった。

慈雲寺を出て、下諏訪の町並みを見下ろしながら坂道をゆっくり下ると、御影石の大鳥居が見えてくる。春宮である。建物の配置は秋宮と同じだが、また違った趣がある。建物に施された数々の彫刻たち。秋宮も見事であるが、春宮の彫刻も勝るとも劣らない素晴らしさである。幣拝殿正面、うねるような流線を描く、腰羽目の波。虹梁の上、今にも咲きほころびそうな牡丹。動き出しそうな唐獅子、勇ましい飛竜。時を忘れ、その躍動感に魅入っていた。



慈雲寺・本堂の大棟には武田菱の紋。ここにある「信玄の矢除石」は矢除けの力を持ち、信玄がその念力を宿す矢除札を持って合戦へ赴いたと伝わる。



江戸時代の社殿改修の際、立川流と大隅流の宮大工に春宮・秋宮とも同じ絵図面を渡し、その腕を競わせた。春宮の社殿は地元の宮大工・柴宮長左衛門矩重(大隅流)による。